

# KOCHI ROTARY CLUB

2022  
2023

SINCE 1937



IMAGINE  
ROTARY

2022-23年度 RIテーマ

## 週報



Weekly report

第3515回  
第3516回

2022年 9月27日

2022年10月 4日

2022年10月11日発行

### ● 会長挨拶



皆さん、こんにちは。今日は安倍首相の国葬が行われます。いろいろご意見はあると思いますが、私は単に後輩の死を悼むという意味で黙祷をさせていただきます。

今日は、燦燦基金について少しお話をします。燦燦基金は15年前、森本征彦会長、私が幹事のときに創

立70周年の記念事業として始まりました。当時、高校の授業料が1カ月9,600円でした。ある情報集会で、ロータリークラブは国際的にはいろんな支援事業をしている。短期や長期の留学支援は大事なことだけど、高校の授業料さえ半額や全額免除してもらいながら勉強をしていたり、あるいは、本当は勉強したいけど家庭の事情で断念する子どもたちがいる。もっと足元を見ようよ、どうだろうと言うご意見があり、その席にいた方は皆さん、賛意を示されました。そこで、70周年の実行委員長だった高知広告センターの野中さんが2年間かけて、理事会と情報集会で4回ぐらい話し合いを重ねて、70周年にこの事業を始めようということになりました。

では、どういうふうにしていくのか。まずは、1人1万円、1年で12万円、4年間支給して返済義務なし。ただ、皆さんも記憶にあると思いますが、わずか1万円のお金で何ができる?と思った人もたくさんいたんですね。でも、会長や青少年委員長、野中さんが教育委員会や学校の先生方、あちこちでお話を伺うと「1万円というけど、月謝も払えない子、アルバイトしてでも大学に行こうという子にとっては、その1万円はかなり助かるお金ですよ。ぜひ、やってほしい」というご意見をいただき、ほんとに細やかな援助だけでもやってみようということで始まったのが、燦燦基金です。

燦燦基金という名前は、確かクラブの中で公募して、竹下先生のご意見だったと思うんですが、光輝く、太陽が降り注ぐという意味の燦燦で、私は、ほんの少しだけど私たちが光を注いで、その光を受けた若い人たちが、もっともっと光り輝いて、高知のために尽くす人間になってくれたらいいなという思いで付けられたんだと。難しい字ですけど、いい名前だと思っています。

1年に2人で24万円、4年生までいますので、年間96万円という資金が必要です。最初は強制的ではなく、みんなの気持ちをとということで、基金箱を用意しました。それに1人が年間1万円ぐらいを入れていただいて、不足分はニコニコで補いながらということで始まりましたが、少し無理が出てきて3、4年前から毎月1人500円を徴収しています。

立ち上げたとき、それまで先輩方が残された寄付金など全部を資金として充てました。さらに、河野さんからいただいた河野基金、宮本病院の先生からいただいた宮本基金、関バスターガバナーからの多額の寄付等々、何百万円かはあります。けれども、できれば1年1年は、皆さんの気持ちで賄っていきたいと思っています。始めた以上、やめることはできないというのが私の最初の覚悟で、かなりしつこく皆さんに申し上げました。「やるということは、やめられないよ。始めました、やめましたでは、本当にみっともないことになるから」と。今でも、それは強く思っていますので、これを機会に、100円、200円でもボックスに入れていただければ、1年間が賄っていけます。それが、これから高知のために役立つ人材育成の、ほんの細やかであっても、支えになるかもしれません。

やっぱり足元を見ようよということをお大事にしていきたいと思っていますので、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

### ■本日のプログラム [10月11日]

新会員スピーチ

(有)ツノ工業 代表取締役

津野 泰孝 会員

「いつの時代にも必要とされる企業へ」

会 長	杉 本 芙美子
副 会 長	中 澤 陽 一
幹 事	佐 竹 新 市
副 幹 事	細 田 長 司
会報責任者	南 南 範 子

9月27日 例会

**● ロータリーソング 「奉仕の理想」****● 今週のピアノ曲** ショパン 「ポロネーズ」

ピアノ演奏：宮地公美子会員

**● 幹事報告**

- ・理事会の議事録を掲示板に掲示していますので、ご確認ください。
- ・10月4日の創立夜間例会への出欠締切は今日までです。
- ・11月19日～22日、神戸で第51回ロータリー研究会が開催されます。参加登録等、詳細は事務局まで。

**● ゲストスピーチ****よさこいで世界をつなぐ  
～高知の魅力を世界へ～**よさこいアンバサダー・高知県観光特使  
絆国際チーム代表 田中 恵美子 氏

私は、愛知県名古屋市の出身で、現在はカナダのトロント市に住んでいます。よさこいを始めて16年。縁もゆかりもなかった高知に毎年帰って来て、世界中の子と踊ることができる素晴らしいよさこいという文化、そして、それを支える皆さまに、まずはお礼を申し上げます。

よさこいアンバサダーというのは、2016年、よさこいを世界に広げるために高知県庁が始めたもので、現在、私を含め、世界20カ国に50名ぐらいのアンバサダーがいます。その他、私はよさこいのチームがない国に行って、よさこいを広めるよさこいマイスター、高知県といの町の観光特使、高知県よさこいアンバサダー絆国際チームの代表、さらに、よさこいレジェンドと呼ばれる7名の振付師の先生と一緒に、よさこい8というプロジェクトも立ち上げました。

私は、元は、ホテルマンや愛知万博のアテンダント、沖縄の無人島でスキューバダイビングを教える等々、いろんな仕事をしていましたが、現在は語学学校を経営して、日本語と英語を教えています。コロナ禍で働く形態も変わり、教室を閉めて、全てオンラインで世界中の方に教えていて、高知とカナダの半分ずつの生活をしています。

2006年、名古屋のど真ん中祭りに、よさこいの踊り子として参加しました。そのとき、こんなにお金がかかるお祭りが世の中にあるんだとびっくりしました。地方車、衣装、振り付け等々を踊り子たちが負担してチームを作り上げていきます。その後、カナダに引っ越ししました。トロントで語学を教えたり、地元の方と触れ合う中で英語力など自信がな

くなりつつあるとき、メジャーリーグの試合の前座でよさこいを踊る機会があり、踊った後、たくさんの方が私たちに温かい拍手、声援をくださいました。そこで、よさこいというのは英語が話せなくても、その国に長く住んでいなくても、たくさんの方が笑顔を向けてくれる、周りの方を笑顔にできる力があることに気づき、雷に打たれたような気持ちでした。

2008年、カナダで桜舞トロントというよさこいチームを立ち上げ、その後、仕事の関係でポーランドに引っ越し、桜舞ポーランドを立ち上げたときに、当時の尾崎知事からよさこいアンバサダーに認定していただきました。

2016年、初めて高知のよさこい祭りに参加して踊ったり、演舞を見たり、地元に入って3日間の祭りを体験しました。それまで、私たちはお祭りの中で、よさこいは一つのパフォーマンスとしてステージで踊るというイメージでしたが、高知では家の窓を開けるとそこで祭りが行われている、観客も一体となって祭りをつくっていることに感動しました。この感動を世界中に広めたい、広める必要がある、もっとたくさんの人が高知に来て踊らないと本当のよさこいを分らない。単にユーチューブで見た踊りになってしまうのは勿体ない、絶対に世界中の人と、もう一度高知に戻って来ようと思いました。

2018年、桜舞ポーランド国際チームを立ち上げました。ポーランドは物価が低い分、賃金も安く日本の3分の1ぐらいです。その私たちが地方車をつくって高知のよさこい祭りに参加するためには、世界中のよさこいの仲間へ声をかけて、たくさんの方に助けてもらわないといけない。そのためには何をすればいいかということから始まりました。結果、世界12カ国、63名の踊り子で第65回のよさこいに参加できました。南国市の大工の皆さんが地方車の枠組みをプレゼントしてくださったり、クラウドファンディングで寄付をいただいたり、多くの方が私たちの思いを理解してくださったお陰です。2019年、チーム名を高知県よさこいアンバサ



ダー絆国際チームと改め、世界18カ国、87名で参加しました。現在は、世界21カ国、100名ぐらいで活動しています。

テレビ高知さんが実際にカナダまで取材に来て、2016年から私たちの活動を追って「鳴子でつながる世界」という1時間のドキュメンタリー番組を制作してくださいました。この番組のお陰で、高知の魅力、よさこいはどんな祭りなのかを知ってもらうことで、私たちの国際チームにも新しい仲間が増えています。

国際チームを立ち上げて5年目。海外で、しかも国が違う中で練習していくには、オンラインでチームを運営し、ズーム・ビデオ・ユーチューブ・フェイスブックなどソーシャルメディアをたくさん使いながら、画面を通して世界中の踊り子が顔を合わせて一緒に踊る練習を半年続けて、いの町で合宿をして、本番に臨んでいます。隣に人がいない状態で練習するのは、実感がつかめないう簡単ではありませんが、それでも、踊り子の後ろに映る家や庭、町の風景で、よさこいで世界につながっているを感じながら練習しています。

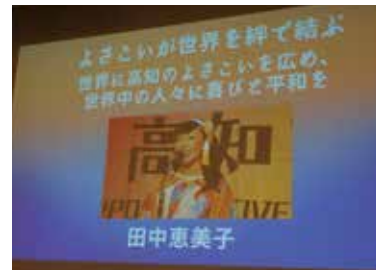
現在、私はよさこいだけではなく、子どもたちの未来のために国際交流やよさこいの楽しさを知ってもらおうと、いの町のキャリア教育授業の講師を務めています。本川地区の長沢小学校で6名の子どもたちに、英語やよさこいを教えて、来月のお祭りに参加します。また、いの町のPR動画を地元の商業高校の学生と創っています。いので合宿をする際には、おきやくをひらいたり、子どもたちとの紙漉き。香美市山田高校のよさこいイベントでアドバイザーを務めて、海外のよさこいチームに映像で参加してもらって、オンラインのイベントで世界をつなぐ手伝いもしています。東京の八王子で開催された2,000人のライブでよさこいを披露したり、あとは、カナダをはじめ、世界中の祭りに参加しています。私たちのチームの踊り子が、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの

国で踊ることで、私たちが体験した高知やよさこいの素晴らしさを、少しでも多くの方に知ってほしいと思いながら活動しています。

高知出身ではない私が、高知とよさこいに魅了されて国際チームを立ち上げて5年、スタッフや踊り子たち、全てボランティアでチームを運営しています。私たちは「高知で発祥したよさこいの素晴らしさを世界中に広めて、その踊り子たちが住んでいる街の一人一人に、1秒でもいいから笑顔になってほしい。苦しいこと、辛いことがたくさんある世の中だけど、世界中の人に一瞬でもいいから、辛いことを忘れて笑顔になってほしい」という強い思いがあります。これからは、世界中の人たちに、もっとよさこいに触れる機会をつくって楽しんでほしい。世界中の踊り子が参加できるお祭りを開催したいというのが、私の夢であり、そこに向けて、たくさんの方の力を借りながら進めています。

また、高知の方々に世界に来ていただき、よさこいの素晴らしさを直に伝えてほしいと願っています。そして、高知の方とそれぞれの国で触れ合うことで、私たちの人生を変えてもらえたよさこいや高知の皆さまに恩返しをしたい。皆さまにいただいたサポートやおもてなしを、今度は私たちができる機会も探しています。

今日、皆さまにお伝えしたかったのは、世界中によさこいと高知のことを愛している人たちが何百人もいるということです。これからも、世界に高知とよさこいの素晴らしさを広めるために活動してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。



10月4日 創立85周年夜間例会

● ロータリーソング 「君が代」「我らの生業」

● お客さま (敬称略)

◎ご家族

杉本 芙美子 会員      杉本 延一<sup>しんいち</sup>  
 中澤 陽一 会員      中澤 佐紀子<sup>さきこ</sup>  
 坂元 陽祐 会員      坂元 晶子<sup>あきこ</sup>・陽菜<sup>ひな</sup> (中1)・昭仁<sup>あきひと</sup> (年長)

◎燦燦奨学生

森 清忠<sup>きよただ</sup>      高知大学 理工学部情報科学科2回生  
 河崎 優花<sup>ゆうか</sup>      高知県立大学 文化学部文化学科2回生



● 会長挨拶

皆さん、こんばんは。今日は高知RC創立85周年の夜間例会です。お忙しい中、皆さんお集まりいただきありがとうございます。ご家族の皆さん、燦燦奨学生のお二人もよくおいでくださいました。

当クラブは、1937年に今治RCをスポンサーとして、高知ではもちろん最初、四国で5番目、日本では33番目のロータリークラブとして創立いたしました。以来85年、私たちからすれば、ずっと遠いおじいさんの代から始まり、この間、四国の中でもトップを走り続けてきたクラブです。そのようなクラブを作り上げてくれた先輩たちに感謝をして、今日は皆さんと楽しい夜間例会を過ごしたいと思っています。

● 燦燦奨学生挨拶

◎森 清忠さん

私は、奨学金の一つの使い道についてご紹介します。最近1万円のオフィスチェアを購入しました。というのは、私は日によっては、1日8時間以上勉強をしていますので、それなりに投資をしておいても価値はあるだろうと考えました。学生はアスリートよりもストイックであるべきだと思っています。アスリートが、自分の最高のパフォーマンスを出すために最高の道具を必要とするように、学生にとってはその道具が椅子です。

とは言え、ストイックだけだったらいざずれ駄目になってしまうので、最高の精神状態を保つためには、遊ぶときには一気に遊びましょう。



◎河崎優花さん

私は、奨学金は教材費と通学の際に使用する自動車代に使っています。1回生のころは、オンライン授業がほとんどで、大学には週1回ぐらいしか行っていなかったので、あまり大学生になったと感じていなかったのですが、2回生になってからは対面授業が増えて、ようやく大学生になったと実感してきました。

今後も学業に励みたいと思います。本日はよろしくお願ひします。





## ● 会員スピーチ

## 地区大会を経験して

中島 和代 会員

ロータリーは全世界にクラブがあり、日本にも北海道から九州まで、各RCがあります。高知は第2670地区で、四国4県が所属しています。高知県には15クラブ、第I分区（香長・安芸・中芸・高知南・高知東・高知中央・高知ロイヤル）と第II分区（高知・高知西・高知北・仁淀・須崎・中村・四万十・宿毛）に分かれています。



地区大会は、地区の担当クラブが持ち回りで開催しています。四国4県で74クラブ、会員数2,900人余り、半分が出席するとして、ご夫婦で参加の方もいて、2,500～3,000人が3日間の大会に参加します。さらに、RI会長代理、海外からの招へい者、ガバナー、ガバナーノミニ、役員、リーダー等々もいらっしやいます。

本会議及び関連等の3日間イベント関連経費は約3,350万円。その他、宿泊、交通費、飲食、買い物、観光等々を含めると1億円近いお金が動くと思います。このように地区大会を各クラブで持ち回りすることで、それぞれの地域に人が流れて交流が生まれ、地域のPRにもつながり、四国地区全体が元気になるような取り組みです。

しかし、その地区大会をするということは、ものすごく大変なことです。それを私に担当するようといわれたのは、うちは企画会社なのでできるだろうという先輩方の思いやりだったと思いますが、実は私の会社はイベントはほとんど企画したことがなく、販売促進企画といったことがメインですので、えっという感じでした。どうしようと思いました。ものすごく心配で、ほんとうに困りました。このとき、一番助けてくださったのが事務局の片岡さんでした。前年度担当したクラブの資料を取り寄せたり、参考になるものをくださったり、片岡さんがいなかったら、私は多分、出席拒否をしていたと思います。

実施するに当たって、まずクラブの重鎮の方たちは登壇してスピーチをしたり、表彰されたり、舞台上での役割があります。また、その他の役員などそれぞれ役割がある方は実行部隊から除いた後、実施内容を担当別に分類し、それぞれの役割にあった担当チームとリーダーを決めました。そして、役割分担ごとに、重要ポイントを明確にし、メンバーの仕事内容なども考慮して、中田由季さんをはじめとしてリーダーと必要人数をクラブ全数から割り当てまし

た。準備、当日の案内、来場者の確認、その他、面倒なことが山積みでした。

高知RCは、地域で活躍する企業の経営者や支店長、支社長など転勤族が多いのですが、やはりそれぞれが一流企業の組織のトップであり、プロフェッショナルとして事業をされています。ですから、一旦流れを理解すると、自分のグループの役割を分担して、全員が指示待ちではなく、自ら考えて行動してください。重要ポイントの確認とタイムスケジュールと登壇者リストさえ明確なら効率的、かつ気配りのできる組織として非常に信頼できました。組織を動かす手立てがよく分かっている、ちゃんと事業を発展させているところの方は気がつくところ、気配り、事前確認等々、私が何もしなくても、かつちりとはまって、プロフェッショナルとして仕事をするということは、こういうことなんだと改めて感じました。

私がこの地区大会を担当したのは、入会后10年ぐらいだったと思います。それまでは、大先輩で重鎮の方とは顔は合わせても、少し会釈をする程度だったのが、この大会を実行するためにはどうしてもやり取りをしなければいけない。そこで思ったのが、ものすごく皆さん気さくで、私が緊張していると励ましてくださったり、何かをお願いに言っても「ロータリーにはノーはない」といったポリシーが皆さんには叩き込まれているので、嫌だという方はいません。皆さんが協力的でやってくださる。

入交太二郎さんは、会う度に「どうで、できゆうかえ。大丈夫大丈夫、みんなが手つどうてくれるきね」と優しく声をかけてくださいました。以前に地区大会を担当したことがある方は「大変さは分かちゅう。分かちゅうけん大丈夫、わしにもできたき。分からんことがあったら、何でも聞いてきいや」とか。それまでは、そんなに親しくお話したこともなかった方が「困ちゅうことはないかえ」と事務所まで訪ねてくださったり、関さんや森本征彦さんは、分からないことを聞くと細かく教えてくださいました。大会実行委員長だった永野雄一さんも、時々顔を見せて「困ったことはないか」と気を遣っていただきました。

聞きにくいとかお願いしにくいと思っていた皆さんが、逆に心配したり気を遣ってくださって、周りに頼みやすくしてくださいったり、困っているときにふっと気持ちが軽くなるひと言、ふた言をかけてくださいました。やはり上に立つというのは、こういうところなんだなと、しみじみ感じました。

このように私自身、実際に体験して、事務局の方をはじめ、縁の下の力持ちがたくさんいる高知クラブのすごさ、すばらしさを改めて感じた地区大会でした。



### ◇ 例 会 変 更 ◇

高知東RC	10月12日	創立夜間例会(阪)	高知ロイヤルRC	10月18日	リレフォーライフジャパンマラソンに振替(旭)
高知中央RC	10月27日	職場例会(城)	高知西RC	10月28日	ロータリー休日(三)

※例会会場ホテル：(三)…三翠園(城)…城西館(阪)…ザクラウンパレス新阪急高知(旭)…ホテル日航高知旭ロイヤル

### 😊 ニコニコ箱 【敬称略】 〈9月27日〉

- 藤田 徹也 田中恵美子さん、本日はありがとうございます。よさこいと高知への思いが伝わってきました。これからも世界に向けてご活躍ください。
- 森本 征彦 先日、日曜日ゴルフを無断欠席し、パートナーに大変ご迷惑をかけました。ゴルフ歴50年、1000回以上のラウンドで初めての重大失敗でした。お詫びにニコニコします。
- 尾木 謙三 昨日、メンバーの森本征彦さんご夫妻が私の家へ来られまして、雑草だらけの庭をすっきりきれいにしてくださいました。独居老人として、森本さんに感謝するとともに、ロータリーの側隠の情に接し、改めて感動しましたのでニコニコします。
- 西岡 剛 7月入会してから一度もニコニコしたことがなかったので、今回初めてニコニコさせていただきます。ニコニコ！
- 藤田 洋子 お誕生月をお祝いくださいまして、ありがとうございます。出来会員のご配慮に感謝です。
- 中田 由季 } 本日の杉本会長ごあいさつ、とても良いお話で感動しました。会長あいさつ中に、スマホを使用されている方をお見受けしましたので「コラコラ、ダメダメ」と。今後も皆さまの節度ある行動をお願い申し上げます。
- 寺田 文彦 } PS.その度々にここに回数が増えちゃいます。
- 吉村 貴志 }  
(S A A)

### 🌹 10月のお祝い

(会員誕生日)	岩田 和久	水野 大樹	新谷 竜司	津野 泰孝	各会員
(配偶者誕生日)	隅田 由紀	筒井美千子	右城 絹枝	松岡 厚子	
	岡 美智	山崎 るみ	中澤 芳江	尾木 郁美	各会員配偶者
(結婚記念日)	寺田 文彦	寺本 武司	藤原 文也	古谷 純代	小林 達司
	高橋 淳二	正延 知行	中澤 陽一	南 範子	各会員

◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
9月27日	(-10)92	47	12	23	71%
9月13日	(-7)93	63	14	9	83%

◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
10月 4日	(-15)92	40	25	12	67%
9月20日	(-10)93	57	16	10	80%

### ● 累計額 [10月4日現在]

ニコニコ箱	229,500円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦燦基金	48,736円	ポリオ募金	135,100円
-------	----------	--------------------------------	---------	-------	----------

### ■ 次週のプログラム [10月18日]

ゲストスピーチ  
塩杜氏 銀象代表  
田野屋 銀象氏  
「知られざる天日塩の聖地 高知」

創 立 昭和12年10月  
例 会 日 火曜日 12:30~13:30  
例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131  
事 務 局 高知市本町3丁目2-15 高知新聞放送会館6階  
TEL(824)8660 FAX(824)2529  
E-mail [shinairc@joy.ocn.ne.jp](mailto:shinairc@joy.ocn.ne.jp)  
HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>